

佛教大学
公式キャラクター
「ぶったん」AKAMATSU Tomoko
教授 赤松 智子

科研費種別

研究課題

基盤研究C

観光資源を活用したパーキンソン病の人のリハビリテーションへの応用

研究期間

2016-2020

はじめに

観光は、楽しみを求めて自宅から離れた目的地での体験や対人交流が含まれる活動であり、健康になるための統合的な方法の1つには、ウェルネスツーリズム;Wellness tourismがある。ウェルネスとは、自己の状態を認識し、気づきを通して生活習慣の改善や予防を考えることであり、観光資源の活用を通して、心身の健康回復や増進だけではなく、環境の変容やエンパワメントを高める機会になる。

パーキンソン病(Parkinson's disease;以下PD)は、歩行障害やバランス機能の低下、不安や抑うつ気分、自律神経機能障害といった多彩な症状を示す進行性の難病である。さらに、不随意運動や薬効時間の短縮といった副作用を伴う場合もあり、外出を控え社会参加の機会が減少する人もいる。

本研究は、PDの人の生活の質(Quality of life;以下QOL)の維持向上のために、京都の観光地を訪問するウェルネスツーリズムを実施し、観光資源の活用と有効性について科学的根拠を提示することを目的とする。

方 法

- 事前調査 症状、薬効、PDの人が訪問したい観光地
 - 観光地調査 段差、路面、休憩場所、トイレ、交通手段等
 - 調査報告 PDの人が訪問場所・日時、同伴者を決定
 - 実施 1時間程度、現地で過ごす
- 評価・測定 実施1週間前・後にPD由来のストレスとQOL
3ヶ月後、生活の様子について聞き取り

対 象

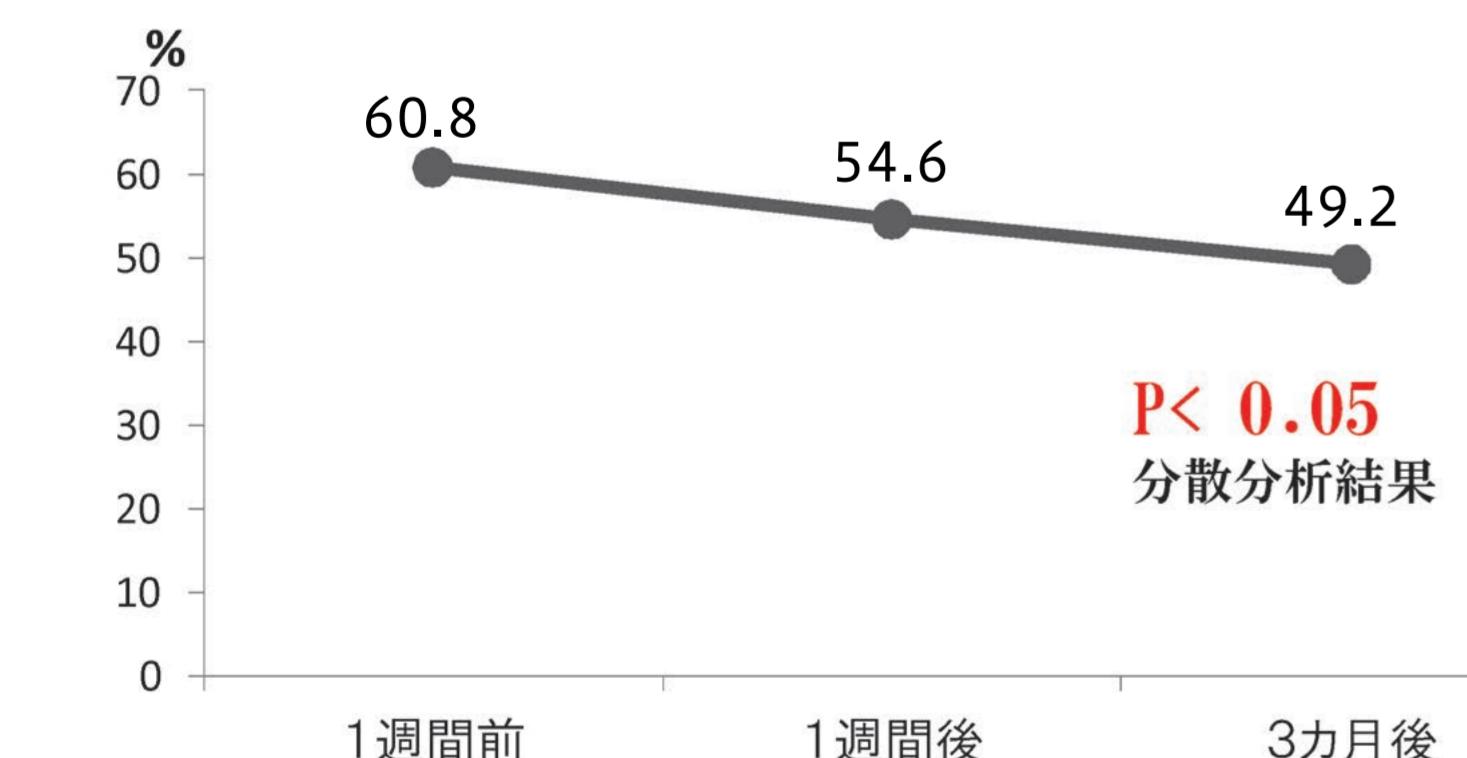
人数・平均年齢	22人・63.4(48-79)歳
平均経過年数	13.6 (3-26)年
Hoehn&Yahr	I II III IV
重症度別(人数)	1 5 15 1
移動手段別(人数)	独歩 杖歩行 歩行器 車いす
	10 5 1 6

結 果

	人数(%)
気晴らしになった、楽しかった、また行きたい	22(100)
リハビリになった(心のリハビリ 4名)	20(91)
身体のことを考える機会になった	15(68)
変化を感じる	12(55)

- ▶ 人の多い所に行けた
▶ 車いすで行けた
▶ 普段より歩けた
▶ 外出を意識し家族との会話が増えた
▶ もっと歩かないといけないと、感じた

PD由来のストレスの変化



ウェルネスツーリズムの様子



3ヶ月後の聞き取り内容

- ▶ 外出頻度や家族との交流が増えた
▶ 医師と話すようになった
▶ 投薬調整のための入院をした
▶ 北海道旅行を計画し毎日歩いている
▶ 20年ぶりに新幹線に乗って墓参りに行った



専門分野

リハビリテーション科学・福祉工学、神経心理学

科学研究費採択

- ・基盤研究(C)
観光資源を利用したパーキンソン病の人のリハビリテーション効果についての研究 2011-2016
 - ・基盤研究(C)
パーキンソン病の認知リハビリテーションの開発 2006-2008
 - ・若手研究(B)
手続き記憶課題利用による認知リハビリテーションへの応用 2002-2003
- 最近の業績
- 1.パーキンソン病の人に対する京都におけるヘルスツーリズム、「第30回リハビリテーション論文集」30巻特別号 2015年11月
 - 2.京都の観光地訪問によるパーキンソン病の人のリハビリテーション効果、「佛教大学保健医療技術学部論集」J8号 2014年3月
 - 3.ソニーパークを利用したパーキンソン病の人のリハビリテーション、「第28回日本観光研究学会全国大会論文集」2013年12月
 - 4.視覚障害者の描画活動導入について、「作業療法ジャーナル」47巻4号 2013年4月
 - 5.生涯学習の場を利用した作業療法の紹介-佛教大学四条センターにおける実践から-、「佛教大学保健医療技術学部論集」6巻 2012年3月

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/teachers/detail/184/>

まとめ

- ▶ 京都の観光資源を活用したウェルネスツーリズムは、PDの人の病気由来のストレスを軽減し、QOLの維持向上に効果がある。
- ▶ PDの人が健康状態や生活を見直す機会となり、行動変容のみならず家族や社会(観光)にもエンパワメントの機会となった。

科 研 費
KAKENHI

本研究は JSPS 科研費 23614029の助成を受けたものです



佛教大学